

はじめ通信

HAJIME TSUSHIN

佐々木 紀 後援会機関紙 Vol. 13



「つなぐ力」

決意新たに
5期目がスタート

初心に返って!!

昨年10月15日に公示された第50回衆議院議員選挙。自民党には厳しい結果となりましたが、私自身は5期目を迎え、いっそう重責を担う立場になります。12年前の初出馬でめざした誠実な政治を心に刻んで歩み続けます。



2024年10月15日 選挙戦がスタート



遊説中に受けた多くの激励に感謝して

よみがえった初出馬の思い

令和6年元日、私たちのふるさと石川県で発生した大地震で多くの尊い命が失われ、まちの様子が一変して、ごく当たり前の日常が奪われてしまいました。この大震災で犠牲になられた方々に謹んで哀悼の誠を捧げ、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

震災後、私は何度も被災地を訪れ、悲惨な状況を目のあたりにして深い悲しみを覚えました。思えば私が無名で無力な一青年でありながら、国政の道をめざしたきっかけは平成23年の東日本大震災でした。私にとって東北は学生時代からおよそ10年を過ごした、いわば「第二のふるさと」。大震災の津波で青春時代の思い出が流されたような悲しみの中、ボランティア活動を繰り返しました。その時、国の復興対策や手法に疑問を持ち、震災の翌年に実施された衆院選への出馬を決意したのです。

今、自民党の県連会長として県の発展に向けて先頭に立つべき時、皮肉にも再び国政で大震災に向き合うことになりました。被災地、被災者の皆様に寄り添い、大至急復旧・復興への施策を進めて参ります。

衆議院議員

佐々木はじめ

HOKURIKU SHINKANSEN

北陸新幹線

待望の県内全線開通が実現

南加賀の新時代が始まる!

北陸新幹線は2015年に長野・金沢間が開業して以来、9年の月日を経て去年3月、金沢から敦賀までがつながり、念願の石川県内全線開通となりました。小松や加賀温泉から東京まで乗り換えなしの最速なら2時間50分以内。列車での日帰り出張も可能になり、インバウンドの促進など南加賀の新たな発展のきっかけになると思われます。災害などを見据えた東海道新幹線の代替機能の役割を果たす目的からも、残る大阪までの延伸は、早期に実現しなければならぬ国家的な課題です。



ルート検討に向け北陸新幹線延伸自主勉強会が発足

米原ルート再検討を強く主張

敦賀以西のルートとして当初検討された小浜ルートは、京都府内における懸案事項を克服できる見通しが立たないまま年を重ねました。その間、施工費が計画案から大幅に増加することが明らかになったほか、整備工事に伴って出る残土の量が莫大になることが判明し、このままでは延伸事業の継続が困難になります。最近では京都仏教会など京都府民からも、小浜ルートに反対の声が大きくなっています。

小浜ルートの問題点を精査し、着工のメドが立たない場合は、米原ルートを含めたルート再検討が必要です。延伸計画を先送りしないために、石川県でも圧倒的に多くの人々が望む米原ルート復活を強く主張してまいります。



YouTube

敦賀以西ルートの現状と課題について、YouTube 動画で解説しています。ご視聴・チャンネル登録お願いします!



TOPIC

佐々木代議士の伯父

脚本家 佐々木守

記念コーナー開設

テレビドラマ、ドキュメンタリー、映画、マンガなどで脚本家として大きな功績を残した能美市出身の佐々木守さんのコーナーが能美市立根上学習センターの2階に開設されました。佐々木守さんは代議士の伯父で、守さんが残した3千本余の作品の中には山口百恵「赤いシリーズ」や「ウルトラマン」「アルプスの少女ハイジ」「コメットさん」などが特に有名。また小松明峰高校など県内5つの高校の校歌も作詞しました。佐々木代議士は大ヒット作「柔道一直線」の「一直線」を座右の銘のひとつとしています。



故 佐々木守さん (1936-2006)



編集後記

自民党に逆風が吹いた、先の総選挙によって国会の情勢が一変し、自民党は大変厳しい環境におかれています。当選回数を重ねる中、党の根幹を成す重要な役職をいくつも拝命してきた佐々木はじめ代議士は、与野党にネットワークを広げ、自民党の新たな時代を築く旗手の一人といわれています。今回の選挙でも目標の10万票を超える高い得票数で5期目を迎えることができた感謝と誇りを胸に、国政の道を邁進する佐々木はじめ代議士に、どうぞ変わらぬご支援をお願い申し上げます。

国際的友好関係を深め、世界をリードする国に!

世界とつなぐ

政府間や民間団体の交流の機会を大切に親日国と友好関係を深め日本の信頼を高めるとともに石川県の産業や観光事業などを支援します。



メキシコのサウル・サンブラーノ 首席公使と



2024.4.1ベトナム中央理論評議会一行の外務省表敬を引率



台湾の頼清徳総統 就任式で

正規の外交ルートが確立していない台湾との交流の窓口は自民党の青年局。佐々木代議士はかつて青年局長を務めた頃から多くの人と深い絆で結ばれています。



能登半島に
思いを寄せた一年。
何度も現地を訪れ
被災された方々から
実情や要望を
お聞きしました。

元日の発災直後から小松市役所や県庁の災害対策本部に詰め、情報収集や関係各所との連絡に専念。被災した各地の視察を重ねて、県や各自治体の首長との協議をもとに、南加賀への二時避難の準備や政府、関係機関への働きかけに奔走しました。



つなぐ 地方に活力を。



故郷と国をつなぐ

現在の主な役職

- 情報調査局長 ● 選挙対策副委員長
- 国会対策副委員長 ● 政治改革本部 幹事長代理

去年2月5日、衆議院予算委員会の初日の質疑に立ち能登半島地震を「大震災」と命名することを提案して復興に向けた総理の決意を伺いました。



岸田文雄 内閣総理大臣

坂本哲志 農林水産大臣

伊藤信太郎 環境大臣

松本剛明 総務大臣

齋藤健 経済産業大臣

斉藤鉄夫 国土交通大臣

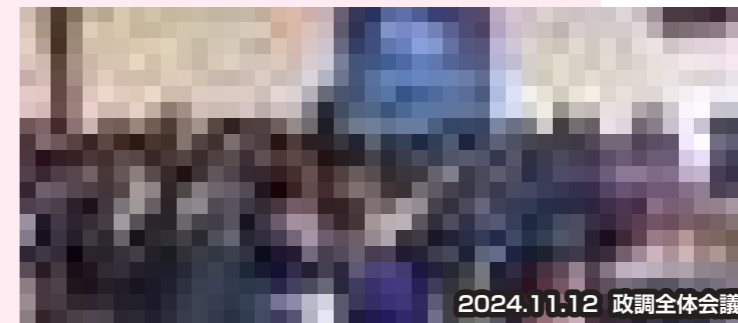
国土交通部会長として責務を全うしました。



2024.1.30 国土交通部会

2023年末から2024年にかけて、国土交通部会長として国土交通政策の取りまとめ役を担いました。能登半島地震で被害を受けたインフラの早期復旧や、観光業をはじめとする打撃を受けた産業への支援に全力を尽くしました。

税制調査会では住宅ローン減税の延長を勝ち取ったほか、政策面では令和6年度予算並びに同補正予算の編成に携わり、小松市の自動運転バスの国支援や、加賀市の全国初となる公共版ライドシェアの導入、白山市乾東交差点の立体化(外環状道路海側幹線の本線部分の事実上の着工)や手取川、梯川流域の治水の予算獲得に尽力しました。



2024.11.12 政調全体会議

未来へつなぐ

信頼される政党、夢のある国づくりを

質問は13項目。インフラの復旧や農業・漁業、観光・伝統産業の復興対策、北陸新幹線の今後などを質し、岸田首相、坂本農水相、伊藤環境相、松本総務相、齋藤経産相、斉藤国交相(いずれも当時)の6人が答弁に立つ異例の予算委員会となりました。